

ワーキングペーパー

大学教育と職業

日中高等教育研究ワークショップ報告書



東洋大学 IR 室

2015 年 4 月

目 次

はしがき

開会挨拶	5
竹村牧男（東洋大学教授・学長・IR 室長）	
1. 高等教育と雇用	7
金子元久（筑波大学教授・日本高等教育学会長）	
2. 中国における高等教育	
—新たな政策的展開	14
謝維和（清華大学教育研究院教授・副学長）	
3. 中国の高等教育と就職	18
岳昌君（北京大学教育学院教授・副院長）	
4. 大学教育とグローバル人材育成	26
劉文君（東洋大学 IR 室准教授）	
閉会挨拶	31
福川伸次（学校法人東洋大学理事長）	
講演者紹介	32

はしがき

東洋大学 IR 室は、平成 25 年に学長直轄の組織として設置され、高等教育研究をベースに置き、国内外の高等教育の情報収集と、本学における教育・研究に関する学内外の諸情報の収集・分析を行い、教学を中心とした政策形成を支援していくことを活動の根幹としている。また、単なる提言機関としてではなく、学長のもと確実に政策を実行する支援機関として位置づけている。

IR 室は上述のミッションに従い、高等教育研究、学生アンケートの実施・分析、国内外高等教育機関の調査、データベースの作成などに取り組んでいる。これらの活動の成果として、一部をワーキングペーパーとしてまとめている。リストは下記のとおりである。

- ✧ 『25 年度新入生アンケート分析結果について』
- ✧ 『I R のツールとしての学生調査分析—米・日・中比較』
- ✧ 『学生の海外経験に関する分析—「卒業時アンケート」より』
- ✧ 『26 年度新入生アンケート分析結果について』
- ✧ 『GPA の分布について』
- ✧ 『学生の勉強時間についての分析』
- ✧ 『中国の大学事情について』
- ✧ 『アメリカ・イギリスの大学ガバナンス』
- ✧ 『日本、東洋大学における出身国（地域）別留学生数』
- ✧ 『ベンチマーク：文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援（タイプ B）」に採択された 12 の私立大学 KPI 比較』
- ✧ 『日本の IR と大学管理—アメリカと比較の視点』
- ✧ 『IR とは何か？—戦略的大学経営と IR の効果的な実践』
(アメリカポストセカンダリー・アナリティクス コンサルタント柳浦猛報告)
- ✧ 『中国の大学における KPI の導入』
(中国北京大学中国教育財政研究所所長・教授 王蓉報告)
- ✧ 『米国における学生の学習成果アセスメント活動及び IR 面からの支援のあり方について』
(アメリカミネソタ州ウィノナ州立大学計画・評価・調査部長 藤枝エリ報告)
- ✧ 『中国における大学教育の内部質保証—北京師範大学の学士課程教育を事例に—』
(中国北京師範大学国際と比較教育研究所副所長・教授 高益民報告)

『大学教育と職業』は最新号のワーキングペーパーとして刊行し、読者のご参考になれば幸いである。

2015 年 4 月 5 日

東洋大学学長・IR 室長 竹村牧男

まえがき

東洋大学 IR 室は、2015 年 3 月 27 日、日中高等教育研究ワークショップ「大学教育と職業」を開催した。

グローバル化の進展、知識基盤社会への転換、高等教育の量的な拡大のなかで、各国の高等教育が大きな転換期を迎えている。企業が求める人材、能力等が大きく変化しつつある一方で、学生の質、学習目的や学力・意欲なども急速に多様化しており、大学教育と職業とのリンクは一層複雑、不可視化になりつつある。このワークショップでは、社会の発展に対応し、国際的視野を持つ人材を育成するために、大学教育と職業との関連をテーマとして開催した。

ワークショップの初めに、竹村牧男氏（東洋大学教授・学長・IR 室長）が開会挨拶を行い、続いて、1. 「高等教育と雇用」（金子元久 筑波大学教授・日本高等教育学会長）、2. 「中国における高等教育—新たな政策的展開」（謝維和 清華大学教育研究院教授・副学長）、3. 「中国の高等教育と就職」（岳昌君 北京大学教育学院教授・副院長）、4. 「大学教育とグローバル人材育成」（劉文君 東洋大学 IR 室准教授）の四つの講演が行われた。最後に福川伸次氏（学校法人東洋大学理事長）が閉会挨拶を行った。

学内外の高等教育の専門家及び関係者がワークショップに参加し、大学改革、学生の教育・学習、グローバル人材育成などについて日中両国の相違点を比較しながら、活発な議論がなされ、好評のうちに閉会となった。

本ワーキングペーパーは、このワークショップの内容をとりまとめたものである。読者のご参考になれば幸いである。

2015 年 4 月 5 日

東洋大学 IR 室准教授 劉文君

「日中高等教育研究ワークショップ」あいさつ

東洋大学学長 竹村 牧男

皆様こんにちは。本日は年度末のご多用の中、「日中高等教育研究ワークショップ」のため、東洋大学にお運びくださり、まことにありがとうございました。特に、清華大学副学長の謝維和先生、北京大学教授岳昌君先生には、遠路はるばる中国からお越し賜り、感謝に耐えません。厚く御礼申し上げます。

東洋大学は、明治期の哲学者、井上円了が明治 20 年、1887 年に創設した「私立哲学館」に由来する大学で、今年、創立 128 周年を迎える、伝統ある大学です。戦前は文学部一つのみの小さな大学でしたが、戦後、着実に発展してきて、今日では、文系・理系あわせて 11 学部、学生数が約 3 万人という、大規模な私立の総合大学に成長しました。建学の精神としては、「諸学の基礎は哲学にあり」「知徳兼全」「独立自活」をあげています。

東洋大学では近年、今日の大学のあり方に求められている、FD 活動、自己点検・評価活動、外部評価となる認証評価受審、情報公開等を、地道に行ってきたと同時に、一昨年 9 月に、IR 室を開設、内部質保証システムをさらに強固なものとするよう取り組んできております。

私は、大学のいのちはカリキュラムにあると考え、2016 年度改訂予定のカリキュラムの制定には、2012 年ごろから取り組み、特にいわゆる教養教育、本学でいう基盤教育の全学共通の枠組みをこのほど完成し、「東洋大学スタンダード」を構築することが出来ました。私どもが、なぜ基盤教育という言葉をつかっているかというと、それは専門の基礎という意味においてではなく、人間としての基盤、社会人としての基盤、学問の基盤、生涯学習の基盤、国際人・地球市民としての基盤、批判的思考の基盤、等々、広範な意味を含めた意味においてであります。そのことにより、学力養成のみの教育から人間力育成重視の教育への質の転換、「知徳兼全」の建学の理念の具現を、考えているわけです。

こうして、本学の教育活動は、主に学部横断的な基盤教育と学部・学科独自の専門教育によって行われます。専門教育は、職業の業種等と直結する職業教育と見ることができます。一方、基盤教育は社会で生きていく際に必要な基本的な人間力の育成、すなわち課題

発見能力、問題解決能力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性などを育成するものとして、やはり職業教育につながっています。なお、建学の理念に関わる「哲学教育」は、自ら考え・判断し・行動することが出来るよう訓練することにもほかなりませんが、それは自分で自分の進路を決定するという、キャリア教育の根幹にかかわるものだと思っております。

さらに、グローバル化しボーダーレス化した今日の社会を生き抜いていくには、どんな変化にも対応して主体性を発揮する力と、そのグローバリゼーションに対応できる語学力や、異文化理解・活用力、自国の文化理解・発信力等をも育んでいかなければなりません。こうした、それぞれの課題に対応するカリキュラムをいかに構成し、かつその内容を実際に具現していくことが切実に求められていると思っております。また、その際には、授業の手法も重要でしょう。双方向的な授業、課題解決型の授業、グループ学習等、高等教育の世界においても、今や授業方法の研究が欠かせないと思います。加えて、ラーニング・コモンズ等、個人やグループの自主的な学修が可能な場を豊かに提供していくことも必要です。一方、インターンシップやボランティア活動の機会の提供と、その単位化によるインセンティブの付与等も重要です。なお、キャリア教育の一環としては、正課外において、さまざまな講座、フォーラム等を用意し、学生の自己啓発のサポートを行っています。特にグローバル人財の育成に関連して、海外インターンシップの場を今、急ピッチで開拓しています。

これらがあいまって、社会に有為の人財を輩出していくことが出来ると考え、私どもはこれらのことに真剣に取り組んでおります。

しかしまだまだ不十分だと思いますので、本日のワークショップで、いろいろとお教えていただけますことに大変期待しています。このようなワークショップを、本学で開催していただきましたことに、深く感謝申し上げます。本日は、数時間のワークショップですが、実り多いことをひとえにお祈り申し上げます。

以上、簡単ではありますが、歓迎のあいさつとさせていただきます。

どうもありがとうございました。



高等教育と雇用

金子元久（日本筑波大学）

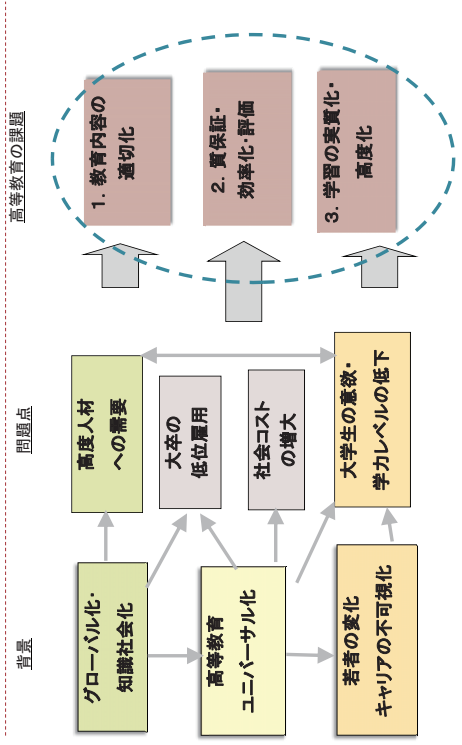
東洋大学 日中高等教育研究ワークショップ
高等教育と職業
2015年3月27日

大学教育と職業

- ▶ これまでも常に問題だった
- ▶ なぜ今、さらに問題となっているのか

▶ 2

なぜ大学教育が問題か



▶ 3

基本的な図式

- ▶ 三つの要因群
- ▶ C 大学教育
- ▶ K 知識・技能
- ▶ W しごと・職業・職務



古典的な分析

- ▶ マンパワー理論 — 固定的な関係を想定
- ▶ 人的資本理論 — ブラックボックス化
- ▶ 理論的な再検討が必要

▶ 4



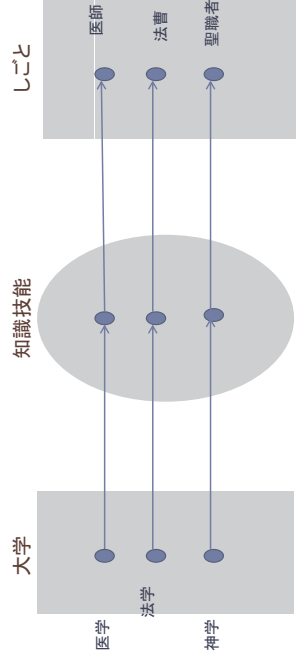
1. 大学教育と職業 – 歴史的視点

2. 日本的特質

3. これからの課題

歴史的背景

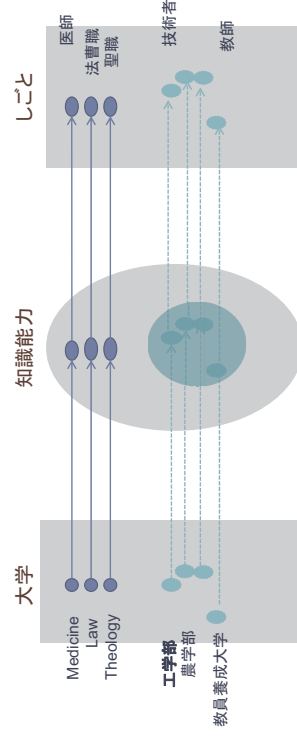
- ▶ 中世の大学
- ▶ 高度専門職の教育 – 医学・法学・進学



▶ 6

第一の変貌 – 19世紀後半

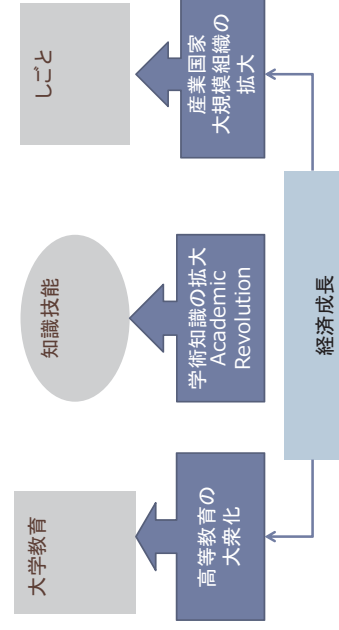
- ▶ 近代産業の発展 専門的職業の拡大
- ▶ 技術者、農業技術者、教師



▶ 7

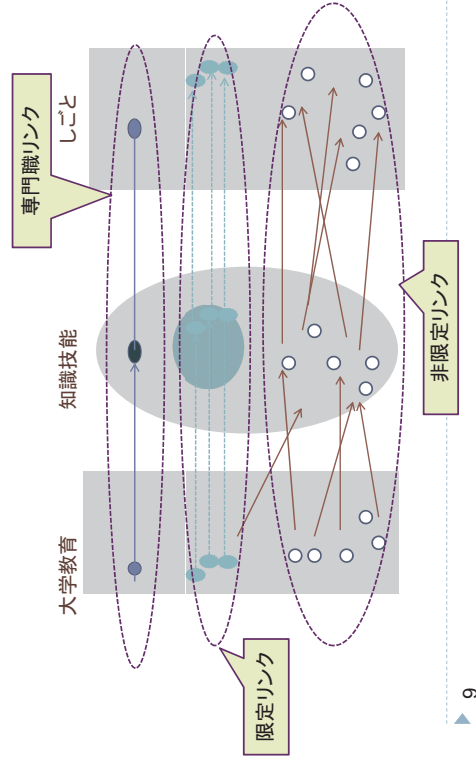
第二の変貌 – 1960-70年代

- ▶ 経済成長 – 高等教育の大衆化
- ▶ 大規模産業組織の発展



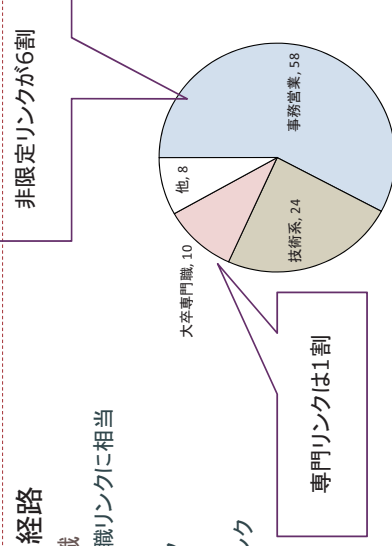
▶ 8

CKWリンクの拡大・拡散化



日本の大卒労働市場

- ▶ 三つの入職経路
 - ▶ 大卒専門職
 - ▶ ほぼ専門職リンクに相当
 - ▶ 技術職
 - ▶ 限定リンク
 - ▶ 事務営業
 - ▶ 非限定リンク



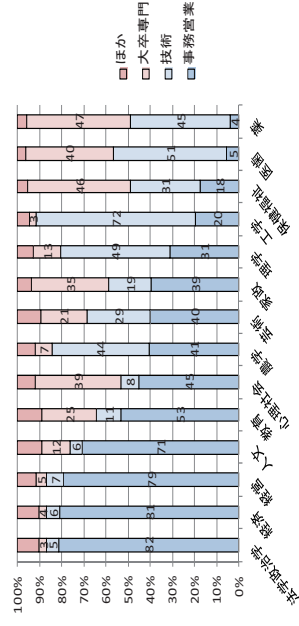
Source: Univ. of Tokyo, CRUMP,
Survey on Working College
Graduates 2009,
N=24,505



1. 大学教育と職業 — 歴史的視点
2. 日本の特質
3. これからの課題

専門領域に対応

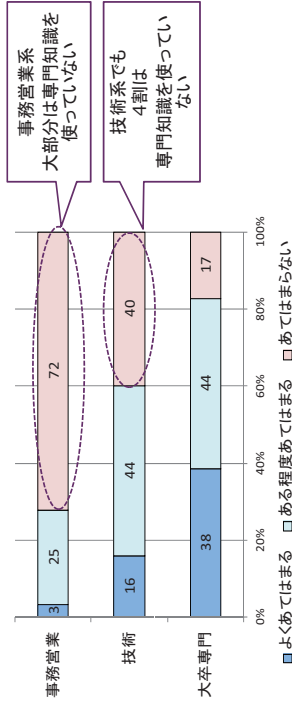
- ▶ 人文社会系 - 事務営業系
- ▶ 工理農 - 技術系
- ▶ 医薬教育 - 大卒専門職
- ▶ ただし 事務営業系は一般的にある



出所: CRUMP 大卒職業人調査 2009 N=24,505

専門知識はあまり使っていない

- ▶ 「大学・大学院での専門知識を活かしてきた」への回答(%)

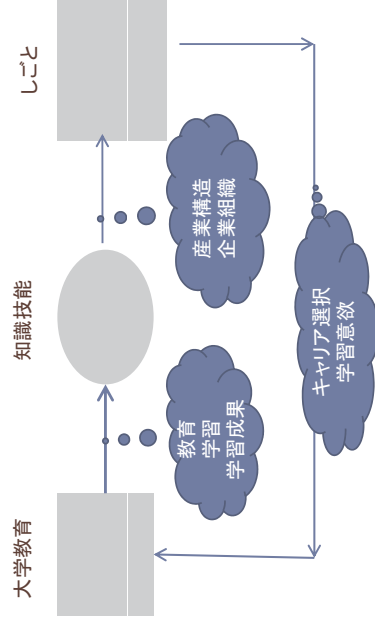


なぜ専門知識が使われない(と感じている)のか

▶ 13

新しい分析課題

- ▶ 三者を媒介する構造



▶ 14

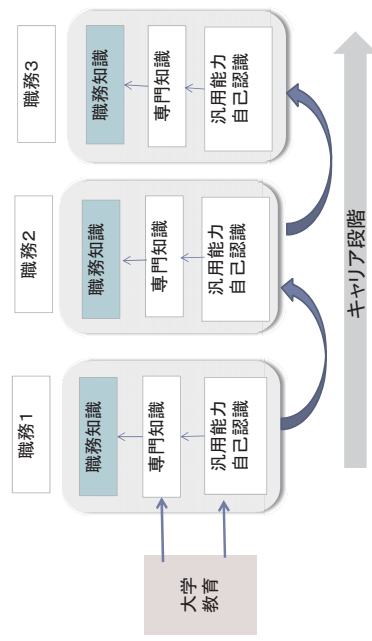
媒介メカニズム

- ▶ 教育・学習・学習成果
 - ▶ カリキュラムだけで決まるのではない 学習課程の結果
 - ▶ 知識技能の重層的な構造
- ▶ 企業組織
 - ▶ 仕事の分担
 - ▶ 仕事に対する報償・キャリア
 - ▶ 職務知識の伝達、創成
- ▶ キャリア選択・学習意欲
 - ▶ 企業組織の構造がキャリア選択、学習意欲を決める

▶ 15

組織での職務と知識能力

- ▶ 職務によって知識と知識職務との関係が異なる
- ▶ キャリア段階によって職務が異なる



▶ 16

日本的特質 — J モード

▶ 一括採用

- ▶ 年齢に応じて定期的な職務ローテーションに組み込み、そこでの経験を一つじて、企業に固有の知識を修得させる。その過程を通じて管理職への選抜を行う。職場の中での職務の分担は年齢に応じて決定され、個人的な知識・技能は直接には報償がない。

▶ 職務知識の共有と発展

- ▶ それが固有の効率性を支える基盤を作る。個人がもつ特定の知識・技能は直接に必要なものは、企画開発などの特定の分野においてであるが、それは資金などの点で処遇されるわけではない。

▶ 必要な知識技能は不可視的

- ▶ 可塑性、成長可能性など、抽象的にしか表現され得ない。学習能力の代理指標としての出身大学の選抜性が重視され、また面接試験に大きなウェイトがかけられる。結果として大学での教育、学習に学生は意欲を持ち得ない。

▶ 17

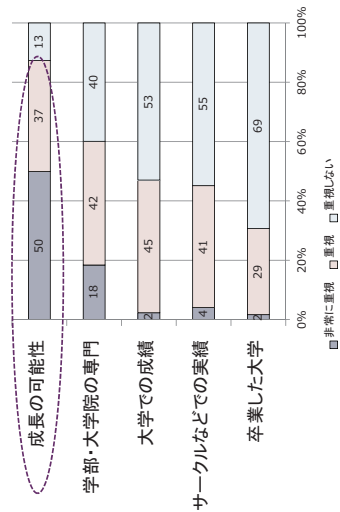
賃金と、仕事で使う能力

	事務系(N=11,694)	技術系(N=4,750)	大卒専門 (N=2,010)
年齢	55.9***	61.0***	56.7***
女性	-20.7***	-13.4***	-17.6***
従業員規模	14.1***	20.3***	5.9***
出身大学選抜性	13.0***	11.8***	14.3***
仕事に関係する専門的・理論的知識	3.6***	2.0	1.2
特定の学問分野の中心となる考え方・知識	-1.2	-0.7	2.8
一般的な教養	1.6*	0.6	1.2
統計や数学的推論などの数量的能力	-2.9***	1.9	5.2**
わかりやすい文章を書く	3.8***	2.1	1.1
人とのコミュニケーション能力	0.3	4.8***	-3.5*
論理的な考え方	7.0***	4.1**	3.4*

▶ 18 標準化回帰係数(%表示) 有為水準*90、**99、***99.9%

採用担当者が重視する点

- ▶ 「大卒者を採用するときに何を重視しますか」に対する答え



▶ 19

日本と中国との比較

- ▶ 日本
 - ▶ 1960年代の経済成長
 - ▶ 日本的特質の形成
- ▶ 中国
 - ▶ 1990年代からの経済成長
 - ▶ 大卒需要は拡大、
 - ▶ 急速な成長のために、大卒労働者の流動性も高かった
 - ▶ 2000年代からの大学生の急拡大
 - ▶ 経済成長の成熟
 - ▶ 企業内での技能知識の蓄積
 - ▶ 流動性も低くなる可能性

▶ 20



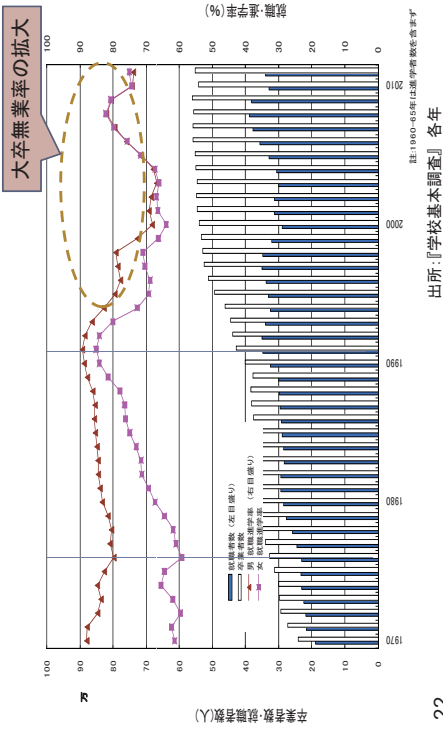
1. 大学教育と職業 — 歴史的視点

2. 日本的特質

3. これからの課題

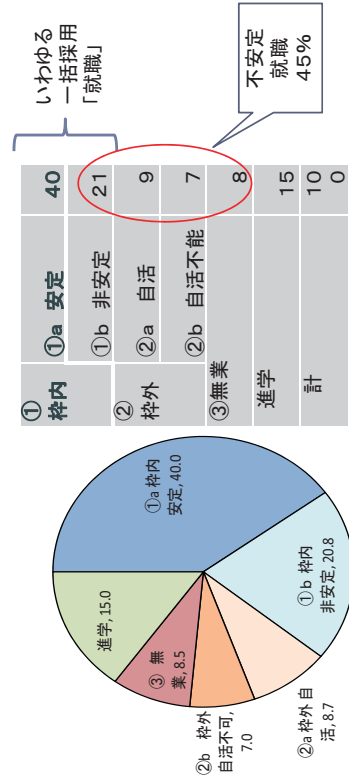
大学教育と労働市場

▶ 大卒就職者数と就業(含進学)率 (1960-2011)



▶ 22

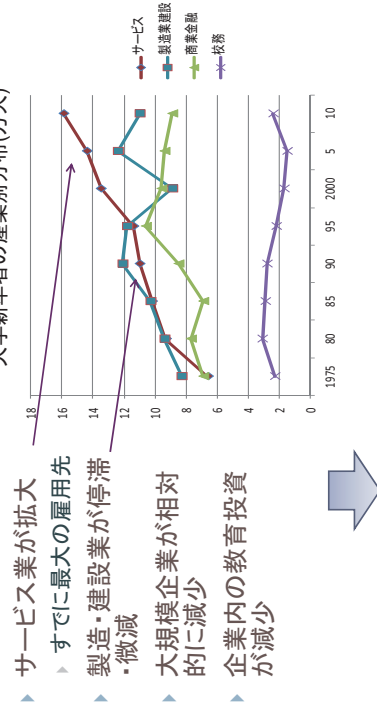
大学卒業生の低位雇用



▶ 23

新しい環境 産業構造の変化

大学新卒者の産業別分布(万人)



大学教育—職業リンクの再構築が必要

▶ 24

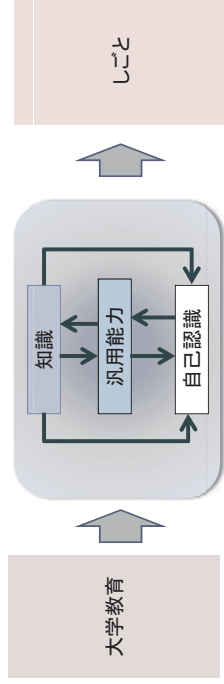
大学教育の課題

- ▶ 学修モチベーションの低下
 - ▶ 将来の可能性が多様化、流動化
 - ▶ 自己認識が未形成
 - ▶ 自律的学習の不足
- ▶ 新しい社会
 - ▶ 産業構造の変化 社会の流動化、多様化
 - ▶ 自律的な学修を継続することが不可欠
- ▶ 新しい教育・学習モデル
 - ▶ 知識・汎用能力・自己認識 の重層性を意識する

▶ 25

大学教育と近代職業

- ▶ 大学教育
 - ▶ 知識・汎用能力・自己認識 を結ぶ回路を作る
- ▶ しごと
 - ▶ その回路が状況に応じて、新しい方向をみつける能力を作る



▶ 26

大学教育と学習の課題

- ▶ 専門的知識、汎用能力、自己認識
- ▶ 大学教育
 - ▶ 上の三つを、授業でどのように有機的に結びつけるか
- ▶ 学生の課題
 - ▶ 学習する過程で、上の三つをどのような形で身につけるか
- ▶ 大学教育は、これから作られる

▶ 27



谢谢诸位！

中国高等教育の新たな政策的展開

—構造改革・地方大学の機能転換・人材育成

謝 維和 (清華大学)

東洋大学 日中高等教育研究ワークショップ
大学教育と職業
2015年3月27日

構成

はじめに

1. 大学の構造改革
2. 地方大学の機能転換
3. 人材育成

はじめに

厳しいチャレンジ

- いかにかに中国の持続的発展を支える力になるか。
- いかにかに社会の転換に対応するか。
- 質を高め、構造を転換し、活性化させること。

(イギリスのReich Reportによるインプリケーション)

中国高等教育及び労働市場における一つ大きなチャレンジ(2015年データ)

- 農村部から都市部へ出稼ぎ労働者が約1500万人増、そのうち、大卒者が749万人。
- 職業能力の開発及び促進がキーになる。

構成

はじめに

1. 大学の構造改革
2. 地方大学の機能転換
3. 人材育成

大学の構造改革 (stock reform)

新しい時代における中国大学改革の特徴

定義

大学の構造改革は、現段階において大学が有する資源の配置及び分配を調整することを意味する。大学の類型・学科・専攻及び立地等に関する調整を含む。

主な内容

第一、人材育成システムの改革

学科・専攻・カリキュラム・教育方法及び評価に関する改革を含む、特に教師の育成が重要である。

第二、高等教育の構造改革

主に学科構造の再編及び配置のあり方に関する調整を行う。特に大学内部における学科間の連携や横断的学科の構築が重要である。

第三、人事制度の改革

教員の管理体制改革のほか、職員の人事制度についても改革を行い、教職員の責任感と効率性を高めていく。

構成

はじめに

1. 大学の構造改革
2. 地方大学の機能転換
3. 人材育成

地方大学の機能転換

目的

- ・ 産業構造の高度化及び公共サービス成長に伴う高度人材の育成。
- ・ 産業構造の転換と社会の発展を支える地方大学の力を高める。

- ・ 中国の高等教育機関計2,500校のうち、地方高等教育機関が95%を占める(『中国統計年鑑』2014年)。
- ・ 地方大学の学生数は中国高等教育機関全学生数の大半を占め、学生に関わる家庭及び利害関係者が最も多い。
- ・ 中国の大学院教育の主体も地方高等教育機関、全体の50%以上を占めている(『中国学位と大学院教育年次報告』2014年)。

特徴

大学の発展と社会発展の融合:

第一、大学の設置形態の融合

大学と地方政府、大学と企業との連携強化

第二、管理体系の融合

大学の管理体制に外部人材の活用を導入する。

第三、学科・専攻の融合

産業の発展に伴い、学科・専攻の見直し

第四、教員の融合

- ・「双師型」教師
- ・専任教員と非常勤教員

第五、カリキュラムの融合

企業等の外部者がカリキュラムの再編に参加する等

構成

はじめに

1. 大学の構造改革
2. 地方大学の機能転換
3. 人材育成

人材育成

strengthening morality education

目標

学生の道徳と価値観の育成を重視し、人材育成の質を高める。

道徳素質が重要な職業能力である

- ・大学生の道徳素質が最も要求される素質の一つである。
- ・企業は新卒採用を行う際に、学生の仕事に対する態度 (attitude) を最も重視する。

価値観の育成

- ・清華大学は新しい教育課程の中に、「価値観の育成」を基本原則として位置づけた。
- ・主な内容: 健全な人格、創新的精神、確固な基礎、グローバルな視野と高度な社会責任感を有する高度な人材の育成。

東京大学 王帥訳



北京大学
PEKING UNIVERSITY

中国の高等教育と就職

岳昌君
北京大学教育学院
E-mail: c.jyue@pku.edu.cn
2015年3月27日

1



主要内容

1. 中国における高等教育と労働市場の発展と現状

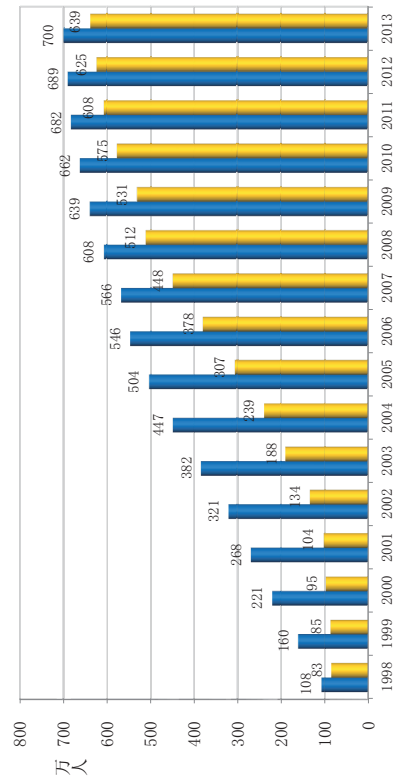
- 規模
- 構造
- 質
- 2. 中国における高等教育と与労働市場の発展趨勢
- 経済発展
- 教育改革

2



中国高等教育機関入学者数と卒業者数

- ◆ 1999年から中国高等教育の7年間の大拡大
- ◆ 2002年に中国高等教育は大衆化段階へ



データ: 国家統計局『中国統計年鑑』

3



高等教育大拡大の原因と結果

- ◆ 需要:
 - 国民収入の増加
 - 教育収益率の増加
- ◆ 供給:
 - 経済の持続的発展
 - 教育財政の拡大
- 大拡大の結果:
 - 卒業生の急増、就職難
 - 就職難の原因は単に規模の拡大ではなく、専門分野の間の構造的なアンバランスでもある。

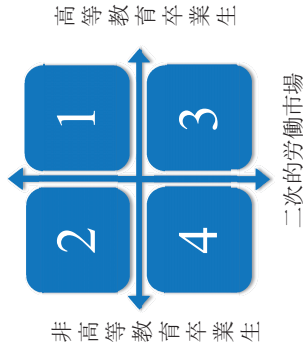
4



市場分割と高等教育収益との関係

- ◆ 高等教育の直接収益(2⇒1)(4⇒3)
- ◆ 高等教育間接収益(3⇒1)
- ◆ 一番目の勝者(4⇒1)
- ◆ 二番目の勝者(2⇒1)
- ◆ 三番目の勝者(4⇒3)
- ◆ 敗者(2⇒3)

卒業生はパターン3を回避、パターン1を望み

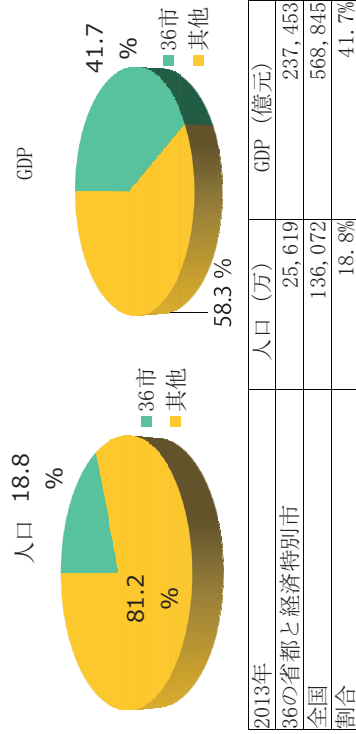


5



労働市場の分割:都市部と農村との格差

- ◆ 都市部の優位性が顕著
- ◆ 36の省都と経済特別市の人口は全国の19%、GDPは全国の42%



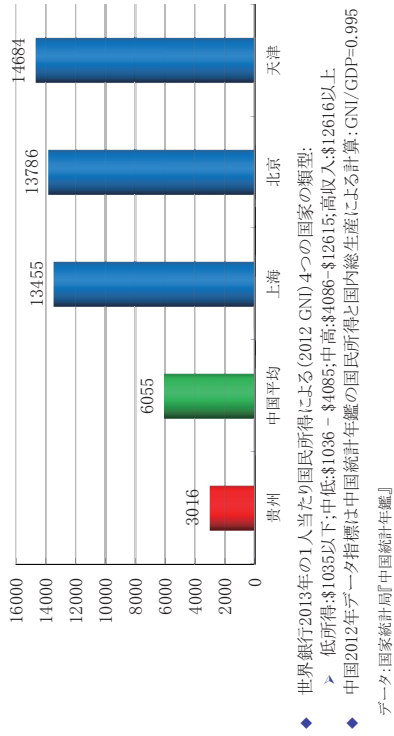
データ: 国家統計局「中国統計年鑑」

7



労働市場の分割:地域の格差

- 北京・天津・上海などは先進諸国程の高水準
- 貴州など中部・西部地域は中・低い水準

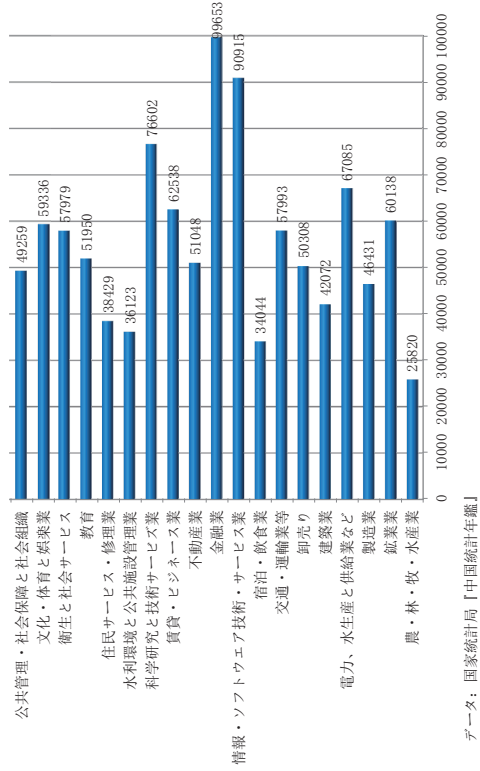


6



労働市場の分割:職種別の格差

職集別就職者の平均所得 (2013年)



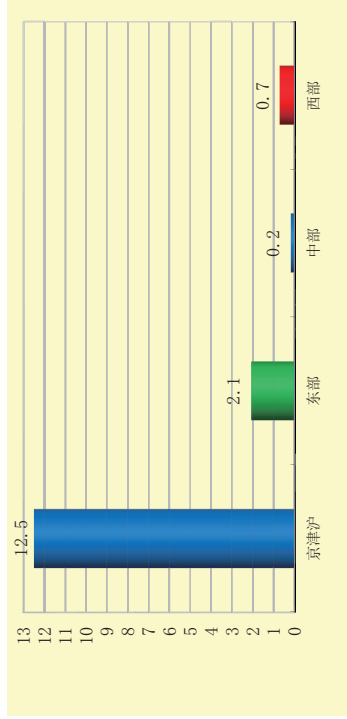
8



卒業生の就職地域の選択

- ◆ 北京・天津・上海と東部地区は流入地域
- ◆ 中部と西部は流出地域

卒業生の流入と流出比 (2010年)



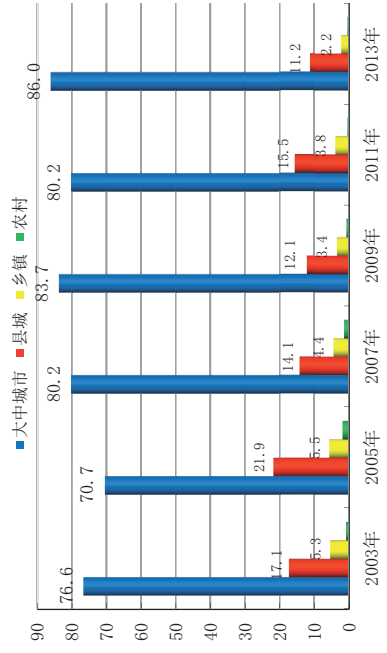
データ:『全国大学卒業生の就職状況』(白書)

9



卒業生の就職志向: 大・中都市へ

- ◆ 80%以上の卒業生は大・中都市で就職、経済発展は都市部を中心とすることが特徴



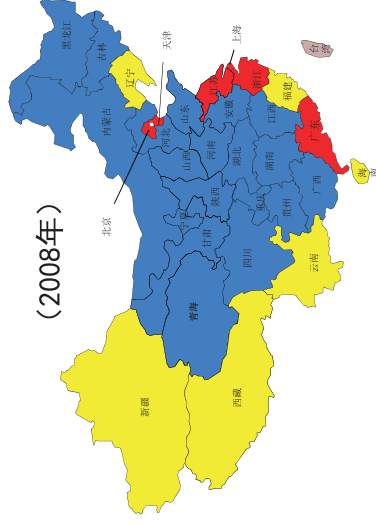
データ: 北京大学『全国大学卒業生就職状況調査』

11



卒業生の就職地域の選択

- ◆ 赤い地域: 流入数が最も多い6の省
 - 広東・北京・上海・江蘇・浙江・天津
- ◆ 黄色地域も流入地域である



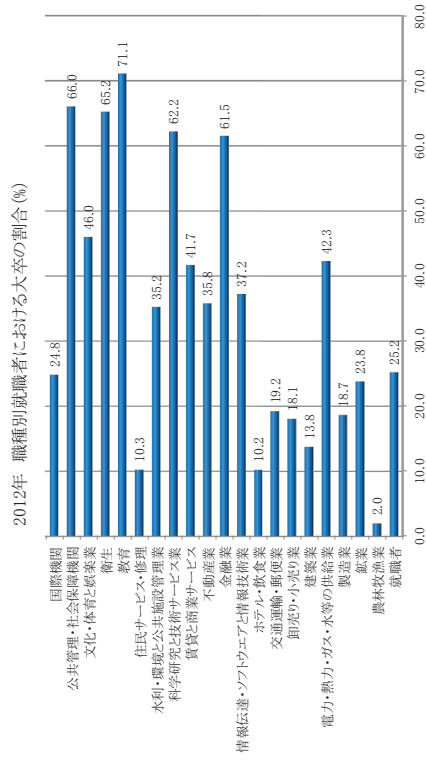
データ:『全国大学卒業生の就職状況』(白書)

10



卒業生の就職志向: 高収入職種へ

- ◆ 高収入職種における大卒の割合が高い:
金融、IT、教育・科学・文化、政府、エネルギー部門



データ: 国家統計局

12



転職による収益率が高い

- ◆ 省別間の転職による収益:10.7%-21.1%
高等教育収益率(12%左右)より高い

表 省別間の流動による収益の回帰益的回帰分析

独立変数	回帰係数	独立変数	回帰係数
性別		成績トップ25%	0.057***
継続流動	0.211***	外国語證書(ある=1)	0.037***
Uターン	0.125***	党員(=1)	0.009
前期流動	0.156***	中レベル収入家庭	0.074***
後期流動	0.107***	高収入家庭	0.119***
性別(男=1)	0.090***	家庭社会関係	0.011
民族(漢民族=1)	-0.011	両親平均教育年数	0.008***
1人子(=1)	0.006	家庭所在地(大中都市=1)	0.012
4年制大学	0.263***	両親の職業(管理・技術=1)	0.030**
大院卒	0.643***	就職地1人当たりGDP	0.239***
「211」重点大学	-0.040***	家庭所在地の高等教育規模	0.003***
非重点4年制大学	0.019		

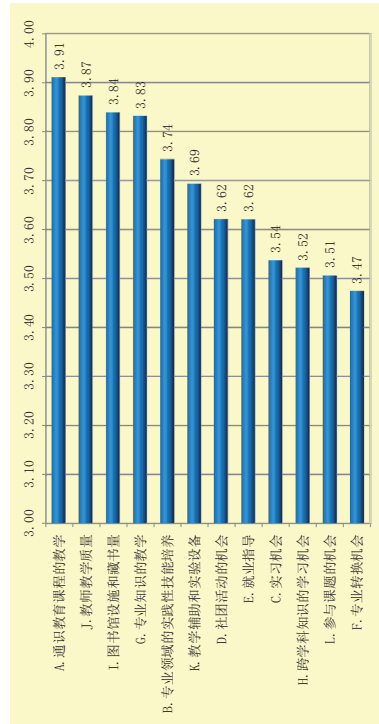
データ:岳昌君「大学卒業生の省別での移動における性別の差異」『教育と経済』2014(1)、Pp.31-39.

13



卒業生から高等教育への評価(2013年)

- ◆ 教学の質への評価は比較的に高い(知識性)
- ◆ 学習・実践に対する評価が比較的に低い(応用性)
- ◆ 専門分野の転換に対する評価が最も低い(選択性)



データ:北京大学『全国大学卒業生就職状況調査』2013、N=15,060

15



高等教育大拡大が質への影響

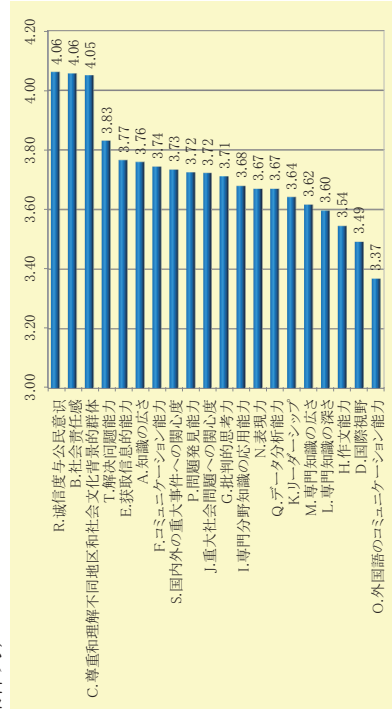
- ◆ 1人当たり教育費の下降
- ◆ ST比の上昇
- ◆ 定員の策定とカリキュラムの改革が遅れ、労働市場の需要への対応が遅れ

14



卒業生の自己評価(2013年)

- ◆ 国際化能力への評価最も低い(外国語能力と国際視野)
- ◆ 専門知識能力が比較的に低い(専門知識の深さと広さ)
- ◆ 実践能力が比較的に低い(ライティング、会話、リーダーシップ、数量的分析、操作力)



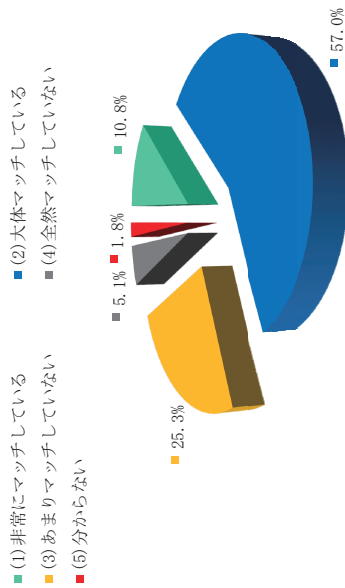
注①⑤段階評価の平均値 ②データ:北京大学『全国大学卒業生就職状況調査』2013、N=15,060

16



専門分野と興味とのマッチ(2013年)

◆ 2/3がマッチしている



データ: 北京大学『全国大学卒業生就職状況調査』2013、N=15,060

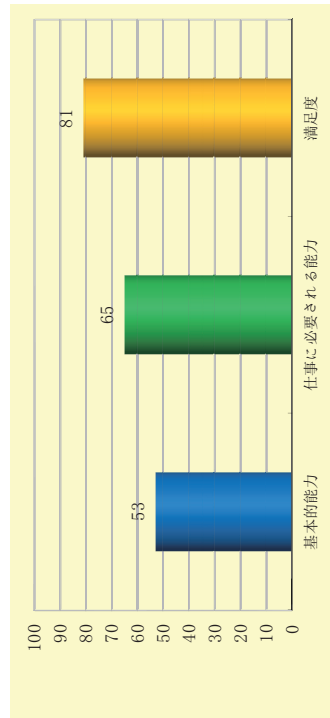
17



基本的な職業能力に対する評価

◆ 卒業時の職業能力は職場での要求より低い、満足度は81%

実際の能力、能力に対する要求、満足度 (2013年)



注: 基本的職業能力。アメリカSCANSを参照、5分類: 理解とコミュニケーション能力、論理的推理能力、管理能力、応用的分析能力、実践能力。

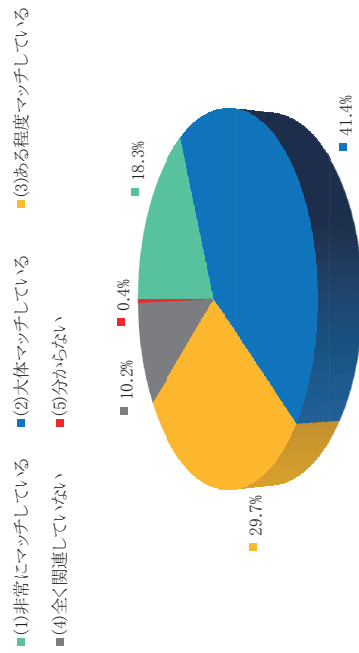
データ: 『2014年中国大学生就職報告』

19



卒業生の職業と専門分野とのマッチ(2013年)

◆ 約60%はマッチしている



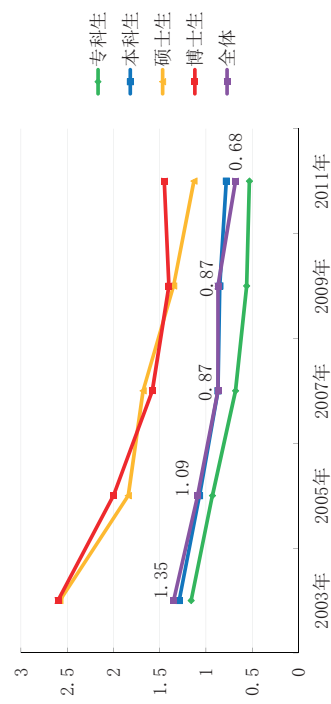
データ: 北京大学『全国大学卒業生就職状況調査』2013、N=15,060

18



就職の質: 相対所得(最低賃金指数)減少

- ◆ 所得を指標とする就職の質が下降趨勢
- ◆ 新規大卒の最低賃金の都市部就職者の平均最低賃金との相対指数が下降



注: 最低賃金指数の算出: 新規大卒の最低賃金*12/都市部就職者の平均賃金。

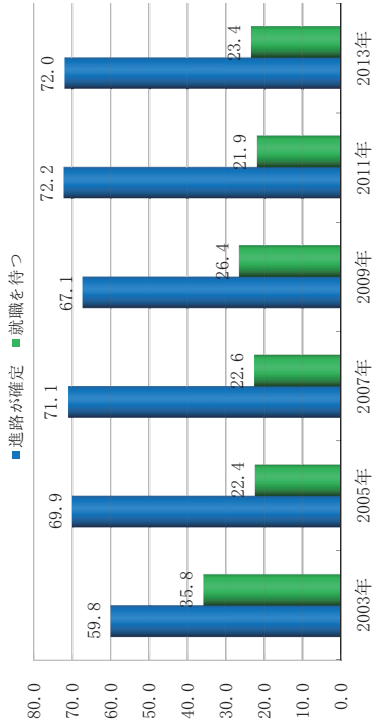
データ: 北京大学『全国大学卒業生就職状況調査』2013、N=15,060

20



卒業生の一時就職率(%)

- ◆ 大卒の1次就職率は70%前後（2003年を除く）、「就職待っ」20%。



データ: 北京大学「全国大学卒業生就職状況調査」2013、N=15,060

21



主要内容

1. 中国高等教育与劳动力市场发展现状

- 規模
- 結構
- 質量

2. 中国高等教育与劳动力市场发展趋势

- 经济发展
- 教育改革

23



主要内容

1. 中国における高等教育と労働市場の発展と現状
 - 規模
 - 構造
 - 質
2. 中国における高等教育と労働市場の発展趨勢
 - 経済発展
 - 教育改革

22



中国高等教育機関卒業生の就職趨勢

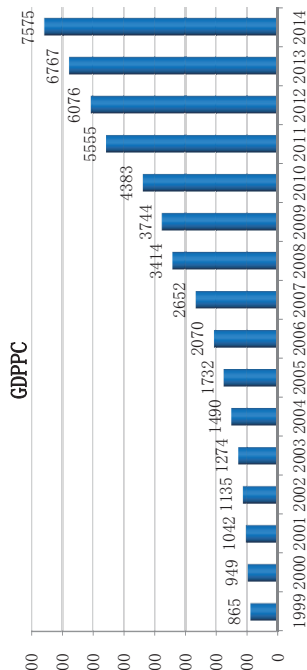
- ◆ 労働市場の需要
 - 経済発展減速
 - 発展パターンが転換
 - 産業構造の転換
 - グローバル競争が激化
 - インタネットの時代の特徴の顕著化
- ◆ 高等教育
 - グローバル競争が激化
 - 学齢人口の減少が著しい
 - イノベーション人材育成の需要

24



離陸的な発展段階にある中国経済

- ◆ 2001年に一人当たりGDPは1千ドルを超え
- ◆ 2001年にWTOに加入
- ◆ 経済は急速的成長



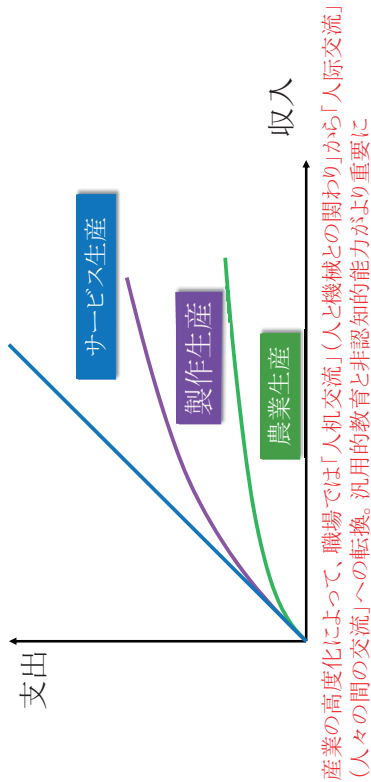
データ：『中国統計年鑑』

25



経済発展段階と産業構造との関係

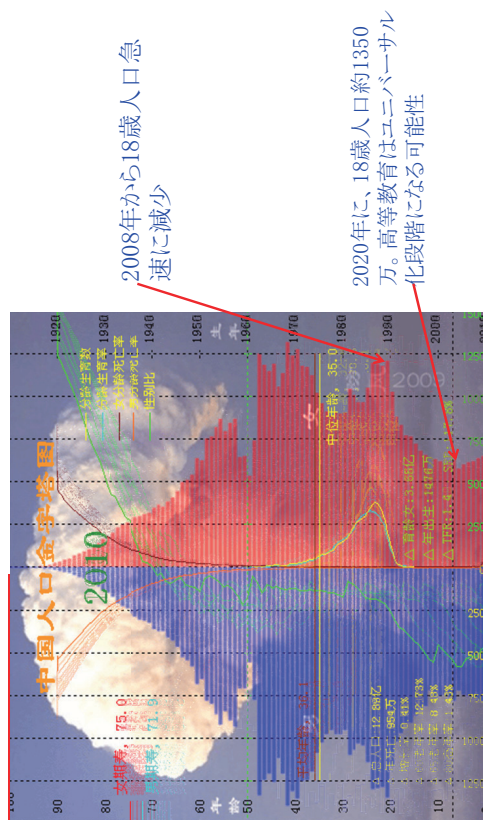
- ◆ 産業: 農業経済 → 工業経済 → サービス業経済
- ◆ 2013年に第三次産業は最大産業



26



高等教育適齢人口の変化の趨勢



一部の高等教育機関は定員割れ

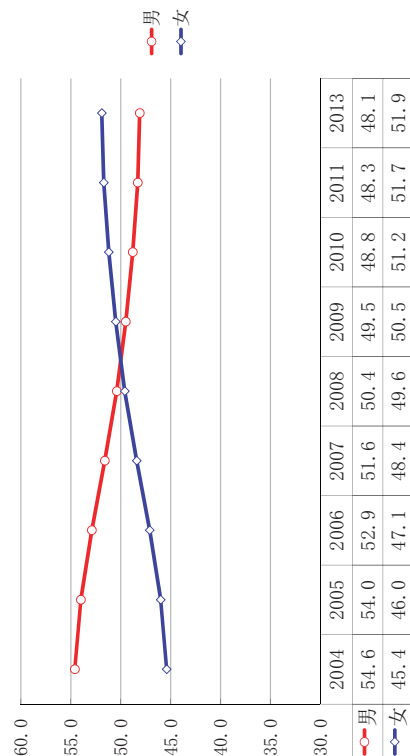
データ：『全国大学卒業生就職状況』（白書）

27



就職チャレンジ: 女性卒業生は急増

- ◆ 2009年から女性の割合は男子より高い

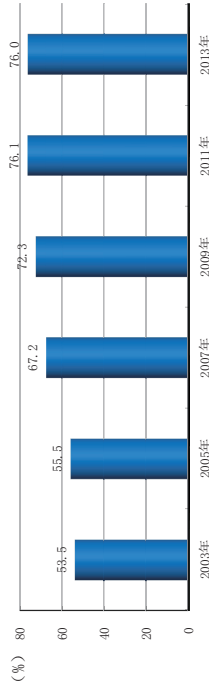


28



多数の卒業生は企業へ

◆ 企業は卒業生の主な就職先となり



国有企業、民営企業、三資企業の割合 (%)

	2003年	2005年	2007年	2009年	2011年	2013年
(1)政府機関	12.4	9.2	12.7	10.9	4.8	5.8
(2)教育機関	23.1	19.3	5.4	6.0	7.5	2.6
(3)研究機関	4.1	4.7	1.1	1.7	1.0	1.6
(4)国有企業	34.5	29.7	23.5	34.5	23.1	30.2
(5)民営企業	10.7	16.3	34.2	31.0	45.8	38.2
(6)三資企業	8.3	9.5	9.5	6.8	7.2	7.6
(7)郷鎮企業	1.0	2.1	1.2	0.8	0.8	0.6
(8)その他	5.9	9.2	12.2	8.3	9.8	11.3

データ: 北京大学「全国大学卒業生就職状況調査」

29



就職の際に重要視されるファクター — 中・米差異

◆ アメリカ
1. 説得力
2. 信頼性
3. コミュニケーション能力
4. モチベーション
5. 仕事への情熱
6. チームワーク能力
7. コンピュータ応用能力
8. 分析能力
9. 適応性
10. 丁寧さ

◆ 中国
1. 仕事能力が強いこと
2. 関連する実習と経歴
3. 学歴水準が高い
4. 応募する際に表現
5. イメージ・風格がよい
6. ホット専門分野
7. 大学の名声、ランクが高い
8. 就職の情報とチャンスが多い
9. コネがある
10. 学習成績が優秀

アメリカ: 「非認知能力」を重視

31



サービス業での就職が増加 (%)

◆ 職業の類型は多様化、技術系・管理系・生産サービス系は「三足鼎立」

	2003年	2005年	2007年	2009年	2011年	2013年
(1)専門技術	51.9	45.2	34.3	43.4	29.2	37.7
(2)技術補助	17.5	17.3	20.8	8.7	8.8	10.9
(3)行政管理	14.0	14.8	17.7	14.1	12.8	12.4
(4)企業管理	6.3	10.5	8.6	13.6	13.3	11.6
(5)サービス業	6.5	6.5	11.4	9.6	20.2	16.2
(6)製造工業	2.2	1.6	5.0	3.3	3.7	4.7
(7)農業生産	0.2	0.4	0.1	0.8	0.9	.9
(8)その他	1.3	3.6	1.9	6.6	11.1	5.6

データ: 北京大学「全国大学卒業生就職状況調査」

30



中国の高等教育改革の施策

- ◆ 専門職大学院修士課程の在学者数の割合を拡大、目標50%増
- ◆ 新設4年制大学は応用的技術型大学への転換を推進
- ◆ 各段階の職業教育をリンクさせる
- ◆ 教育の国際化水準を向上させる
- ◆ 財政的補助金を増加する
- ◆ 「起業、イノベーション」を促進
 - 在学者の起業、イノベーションを進め
 - 中国のBill Gates、Steve Jobs、Zuckerbergを育成
 - 中国の大学卒業生数はイギリス総人口に及び、いかに有効的に開発・利用することが中国経済発展のための競争力のカギである



(早稲田大学 ビヤティン訳)

32

大学教育と「グローバル人材」育成

---A大学卒業生調査の分析



劉 文君(東洋大学)

東洋大学 日中高等教育研究ワークショップ
大学教育と職業
2015年3月27日

1

構成



- 「グローバル人材」とは
- データ説明と分析の枠組み
- 分析結果
- インプリケーション

2

「グローバル人材」とは

- I : 語学力・コミュニケーション能力
- II : 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- III : 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

- 幅広い教養と深い専門性
- 課題発見・解決能力
- チームワークとリーダーシップ
- 公共性・倫理観
- メディア・リテラシー等の能力

ー「グローバル人材育成推進会議 中間まとめ」

3

構成



- 「グローバル人材」とは
- データ説明と分析の枠組み
- 分析結果
- インプリケーション

4

データ説明

- 調査方法: 郵送にて調査協力依頼→インターネット調査
- 調査地域: 全国
- 調査対象: 1999年3月～2010年3月まで12年間の卒業生
- 配布数・回答数・回答率: 17,949、751、4.18%
- 調査期間: 2012年8月1日～2012年9月2日

構成



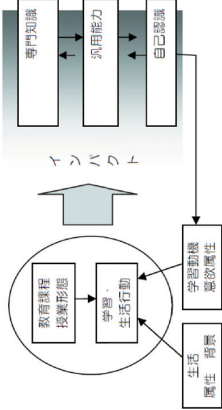
- 「グローバル人材」とは
- データ説明と分析の枠組み
- 分析結果
- インプリケーション

分析の枠組み

能力の次元

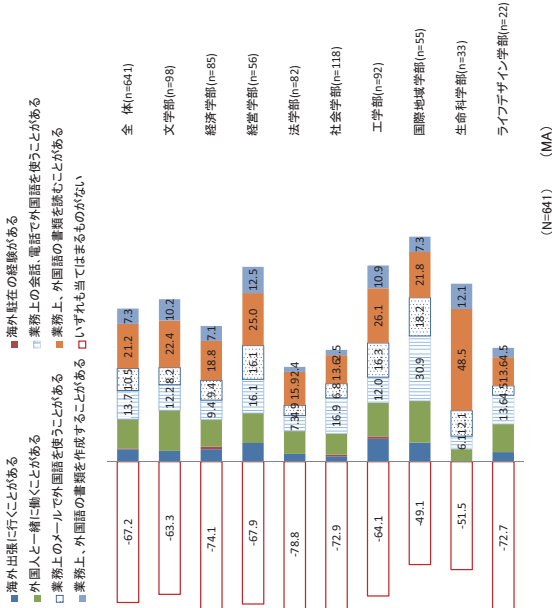
A 専門的知識・能力	B 汎用能力	C 自己認識
A①具体的知識	B①基礎スキル	C①自己・社会把握
A②理解と応用	B②社会スキル	C②意味づけ
A③分析、総合、評価	B③批判的・論理的思考	C③目的・一貫性

大学教育と学生の成長との関係



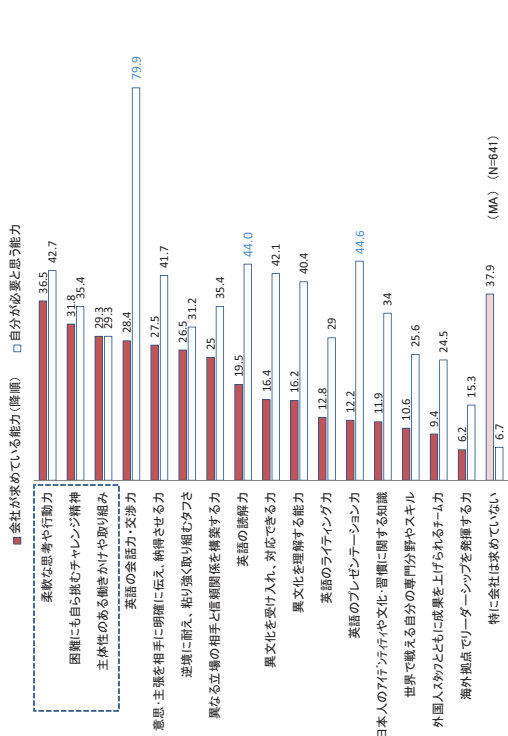
金子元久、2012

3.1a 直近3年間の国際化関連業務



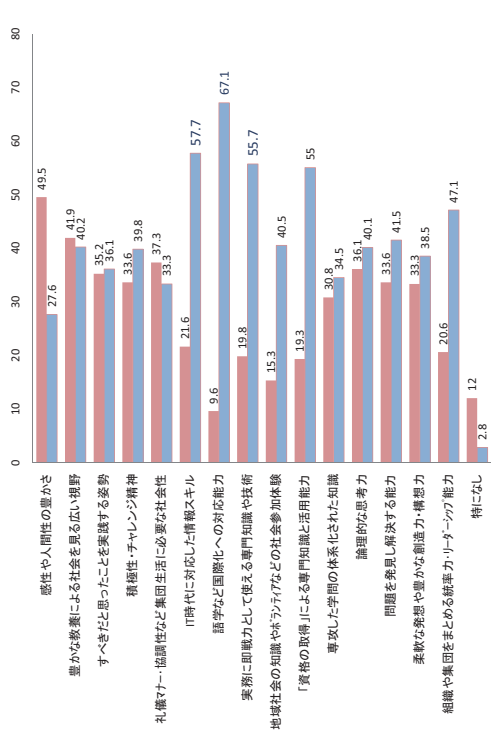
3.1b 国際化の上で必要な能力

「会社が求めている能力」と「自分が必要だと思う能力」



9

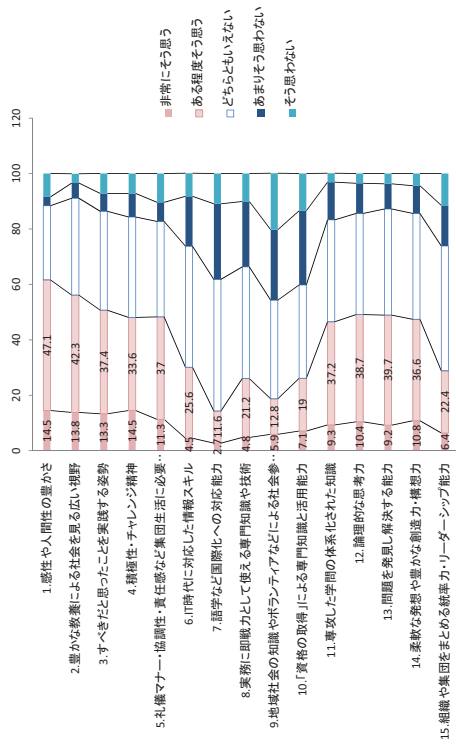
「大学での教育の成果として役立った能力や知識」と「社会に出てもっと学んでおけばよかったと思う能力や知識」



■ 大学での教育の成果として役立った能力や知識 ■ 社会に出てもっと学んでおけばよかったと思う能力や知識

11

3.2a 大学での教育や生活で習得できた能力や知識



10

3.2b 因子分析結果(バリマックス回転後の因子負荷量)

	因子			共通性
	I	II	III	
1. 積極性・チャレンジ精神	.80	.20	.21	0.72
3. すべきたと思ったことを実践する姿勢	.78	.18	.17	0.67
1. 感性や人間性の豊かさ	.65	.25	.13	0.51
5. 礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性	.60	.14	.29	0.47
15. 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力	.53	.17	.29	0.40
2. 豊かな教養による社会を見る広い視野	.49	.44	.20	0.46
13. 問題を発見し解決する能力	.33	.78	.14	0.73
12. 論理的な思考力	.19	.77	.16	0.65
14. 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力	.50	.58	.17	0.61
11. 専攻した学問の体系化された知識	.09	.56	.42	0.50
8. 実務に即戦力として使える専門知識や技術	.15	.19	.70	0.56
10. 「資格の取得」による専門知識と活用能力	.09	.10	.67	0.47
9. 地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加体験	.26	.09	.56	0.40
7. 語学など国際化への対応能力	.15	.16	.45	0.26
6. IT時代に対応した情報スキル	.21	.09	.43	0.24
因子寄与率	3.12	2.30	2.21	7.64
累積寄与率	20.83	36.20	50.94	

因子Ⅰ：自己認識 因子Ⅱ：汎用的能力 因子Ⅲ：専門的知識・能力

A 専門的知識・能力	B 汎用能力	C 自己認識
A①基礎スキル	B①基礎スキル	C①自己・社会把握
A②理解と応用	B②社会スキル	C②意味づけ
A③分析、総合・評価	B③批判的・論理的思考	C③目的・一貫性

12

教学内容や教学環境の効果

因子 I に関する規定要因 (重回帰分析)

(定数)	標準化係数	有意水準
教養教育が充実している	.082	*
専門教育が充実している	-.006	
外国語学習に積極的である	.128	**
資格取得のサポートに積極的である	-.028	
I「活用教育に熱心である	-.036	
人格教育への取り組みに熱心である	.090	*
工夫され勉強しやすいカリキュラムになっている	.023	
参加型・プロジェクト型の実習教育に力を入れている	.196	***
少人数による指導が受けられる	-.018	
著名な教授・講師が多い	.007	
施設・設備が充実している	.046	
教員との交流が多い	.042	
キャンパスの立地がよい	.001	
他学部の授業が選択できる	.028	
職員の手厚なサポート (就職、進学、アルバイト等) がよい	.013	
海外留学制度が充実している	-.030	

N=751

インプリケーション

- 「グローバル人材」に必要とされる能力の多様性
- 大学の教育目標と「グローバル人材」養成目標の一致性
- 「グローバル人材」育成は大学人の共通的な課題
- 教育効果の実態を把握し、共通的な認識を持つことが重要

構成



- 「グローバル人材」とは
- データ説明と分析の枠組み
- 分析結果

インプリケーション

ご清聴ありがとうございました



大学教育と職業、日中の協力を期待して

2015年3月27日

福川 伸次

本日、清華大学謝維和副学長、北京大学岳昌君副院長、筑波大学金子元久教授など著名な研究者のご参加を得て「大学教育と職業」をテーマとするワークショップが開催され、有意義な討論が展開されたことに深甚なる謝意と心からの敬意を表するものであります。私も仔細に議事録を拝読し、この問題に対する理解を深めたいと考えております。

最近の国際情勢をみると、グローバリズムの定着と発展及びイノベーションの展開が最大の課題であると考えます。

1989年にベルリンの壁が崩壊し、東西冷戦が終焉して、人々は、グローバリズムが定着すると期待しました。しかし、21世紀に入って、グローバル・ガバナンスに不安な陰が広がり、グローバル・リスクが高まっております。しかし、19世紀におけるナショナリズムや20世紀におけるイデオロギーの対立の時代に戻ってはなりません。人類がようやく手に入れたもっとも進化したグローバリズムは何としても再建し、定着させなければなりません。

19世紀から20世紀にかけて、世界で目覚ましい進歩を遂げたイノベーション力も停滞しているように感じられます。イノベーションは、もちろん技術革新が中心ですが、制度、管理、経営、価値、社会、文化、教育、環境など、広範な分野に取り組むべきものであります。情報通信関連技術は、素晴らしい発展を遂げておりますが、それを活用しながら広範なイノベーションを展開しなければ、今後の世界経済の成長は期待できないでしょう。

その根源にあるものは、人材力、創造力であり、それを高めるものは教育です。そしてその能力を発現する場が職業であります。中国における大学教育と職業の関係と政策課題は我々としても大変関心のあるところです。

世界経済が停滞を続ける中であって、アジアの活躍に期待が寄せられております。アジアはやがて世界のGDPの40%にも達するであろうと試算されております。その中心をなすものは、日中両国であります。

東洋大学も、世界の舞台で活躍するニューエリートの育成を視野に、グローバル教育の充実に向けて改革に取り組んでおります。本日の発表と討論は、それに大きな示唆をもたらすものであります。

ご参加頂いた諸先生に重ねて深甚なる謝意を表すると共に、今後とも是非緊密な連携を保たせていただくようお願い申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。

講演者紹介



謝維和 清華大学教育研究院教授・院長、日本研究センター理事長（中国側）、副学長。国務院参事室特命研究員。 Ph. D.（中国社会科学院、1988 年）

首都師範大学教授・校務委員会委員長、北京師範大学教授・副学長を歴任。中国教育発展戦略学会副会長、中国高等教育評価研究会副理事長などを兼任。研究分野：教育社会学、高等教育研究。主要著書：『大学就職状況に関する実証研究』、教育科学出版社、2001 年、『中国における教育公平と教育発展（1995-2004）』共著、教育科学出版社、2008 年。『中国高等教育の大衆化過程における構造転換に関する分析』共著、2007 年。



金子元久 筑波大学・大学研究センター 教授、東京大学名誉教授。日本高等教育学会会長。 Ph.D.（シカゴ大学、1985 年）

東京大学大学院教育学研究科教授、同研究科長・教育学部長、大学総合教育研究センター長、国立大学財務・経営センター研究部長などを経て、現在筑波大学大学研究センター教授。専門は高等教育論、教育経済学。日本学術会議会員、中央教育審議会専門委員、日本高等教育学会会長。著書に『大学教育の再構築』（玉川大学出版、2013）、『大学の教育力—何を教え、学ぶか』（筑摩書房、2007 年）、『高等教育的社会経済学』（北京大学出版社、2007 年）、『高等教育財政与管理』（華東師範大学出版社、2010 年）など多数。



岳昌君 北京大学教育学院教授、副院長、教育経済研究所所長。中国教育部人的資本と国家政策研究センター副主任兼任。 Ph. D.（北京大学、2000 年）

研究分野：教育経済学、労働経済学。主要著書：『教育計量学』、北京大学出版社、2009 年、『全国高等教育機関卒業生就職状況』（2004-2008）・（2009-2010）・（2011）・（2012-2013）編集・共著、北京大学出版社、“International Student Mobility: China”. In The International Mobility of Students in Asia and the Pacific, Asia and Pacific Regional Bureau for Education of UNESCO, 2013, pp.18-28. 他。



劉文君 東洋大学 IR 室准教授、東京大学政策ビジョン研究センターシニア研究員。 Ph.D.（東京大学、2003 年）

日本学術振興会特別研究員、東京大学大学総合教育研究センター特任研究員、同大学政策ビジョン研究センター シニア・リサーチャーなど歴任。研究分野：職業教育、高等教育論、教育経済学。アメリカ・中国・日本の大学における IR の現状について研究。著書に『中国の職業教育拡大政策』 東信堂、2004 年、「高等教育と職業能力との関連—大学の卒業生に関する調査」（共著）、2014 年。

